

## 2学期折り返し、3年生はいよいよ推薦試験本番！

11月に入り、秋も深まってきました。11月の大学推薦入試の日が刻一刻と迫ってきており、多くの3年生は試験に向けて小論の添削を受け、面接の練習をし、最後の追い込みで一生懸命です。職員室前の廊下や自習室で必死に勉強をしている生徒を見ると、こちらもなんとかしてあげたいという気持ちが沸々と湧いてきます。その頑張りが良い形で報われることを心から願っています。しかし、その願いが必ず叶うわけでもなく、結果としてそうならないことがあるのが大学受験です。時に推薦入試が今後の受験勉強に悪影響を与えてしまうことがあります。推薦入試を頑張りすぎた故に、終わった瞬間から気が抜けてしまい、一般に向けての勉強に身が入らない生徒、また、推薦入試で失敗してしまったことで、勉強へのモチベーションが低下してしまい、その後の受験がうまくいかない生徒など、推薦入試は早く進路が決まるかもしれないというメリットもあるのですが、悪影響があることも知っておかなければなりません。したがって、推薦入試で受かるための準備は全力でしていくのですが、あくまでも一般入試で勝負するという気持ちをもって、推薦の準備と同時並行で共通テスト、二次試験の勉強をしっかりと進めていくことが大事です。チャンスが一つ増えたくらいの気持ちで気持ちを切らさずに3月の最後の最後まで走りぬいていきましょう。学校はそのつもりで指導を進めていくので、一緒にがんばりましょう。



## 1年生進路ガイダンス開催

10月13日(木)の一時間目にⅡ、Ⅲコース、6時間目にⅠ・Gコースの生徒に向けて、進路ガイダンスが行われました。Ⅱコースでは進路指導部長の箱田先生、Ⅲコースは3学年のⅢコース担任の樋口先生、Ⅰ・Gコースでは進路指導部、三年のⅠコース担任の今井先生より進路講話をいただきました。

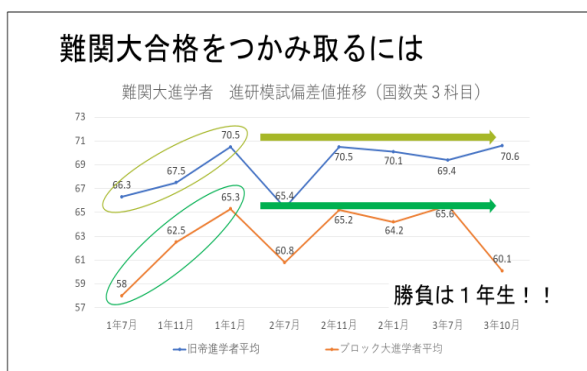
箱田先生からは進路実現に向けての心構えや生活習慣の見直しについて講演していただきました。大学入試に限らず、「世の中はそんなに甘くない、思い通りにはいかない」ことを念頭に、「完璧でなくとも少しずつ向上できる準備を整えていこう」というお話をいただきました。高校生活も半年が経過し、入学当時に思い描いていた理想の高校生活は送れているのか？基本的な生活習慣は確立できたか？文理選択に誤りはないか？など、現状理解・自己分析を促す内容でした。そして、1つずつ階段を着実に登れるよう、学習習慣・生活習慣ともに「始める時刻を決め、毎日同じリズムを続ける」ことが大切であると伝えられました。さらに学習では、「分野ごとに学習の成果が出ているかを確認すること」「全部を一度にやるのではなく、定期試験・模擬試験・実力テストなどを確認するべきポイントに据えることで、一歩ずつ前進できるよう継続しよう」とも伝えられました。Ⅱコースで



は学習と部活動の両方に力を入れている生徒が非常に多いですが、どちらも中途半端ではなく授業にも部活動にも常に高い集中力をもって臨むことが必要です。

現3年Ⅲコース担任で吹奏楽部顧問である樋口一朗先生にはⅢコースの生徒に向けて、大学入試方法の違い、3年生になるまでに考えてほしいこと・やるべきこと、現3年生の入試状況などをお話していただきました。まず、大学入試における3つの方式(総合型選抜, 学校推薦型選抜, 一般選抜)の違いや日程などを確認しました。また、総合型選抜や学校推薦型選抜では「志望理由書」の作成や「面接・プレゼンテーション」があり、早くからの準備が必要になります。「生活が部活動だけになってはいけない」「総合型・学校推薦型では大学から出願評定基準の提示があり、実力テストや定期試験を1年生の時から意識して学習すること」などを伝えられました。「限られた時間の中で学習・部活動の両立が苦しいものであるということは、教員もわかっています。だからこそ、ひたむきに努力する姿勢は誰が見ても賞賛に値するものです。これからの皆さんの姿勢に期待しています。」とエールを送っていただきました。

今井先生からは旧帝大に受かるためには11月まで、そして、1月まで右上がりに伸びた生徒(青い折れ線)が合格を勝ち取っているというデータを示しながら、今の頑張りが大切であるということをお話していただきました。また、自分ひとりで立ち向かうのではなく、お互いに切磋琢磨できる環境を作りながら一緒に頑張る仲間が大切であるということをお話され、「まだまだ受験まで時間があるから」という安易な考えをみんなで持つのではなく、今からみんなで頑張る雰囲気づくりに努め、2年後の受験を意識していくことが勝利への道であるということをお話していただきました。



## 今後の模試予定・進路行事

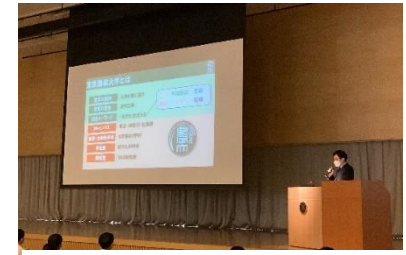
<1,2年生>	11月 8日(火)	進研総合学力テスト(1,2年全員)
	*この模試は特に重要!!	今井先生がおっしゃっていたのはこれです!
	1月 13日(金)	進研総合学力テスト(1,2年全員)
	2月 5日(日)	Z会アドバンスト(1年Iコース全員、他希望者)
	2月 5日(日)	駿台全国模試(2年Iコース全員、他希望者)
<3年生>	11月 3日(木)	駿台大学別模試(希望)
	11月 12日(土)~13日(日)	河合全統プレ共通テスト模試(全員)
	もうすぐ本番!本番を意識!	ここでなんらかの課題が見つかる!と
<行事予定>	12月 3日(土)~4日(日)	駿台プレ共通テスト模試(希望者)
	11月 17日(木)	1年企業大学見学(現地集合、解散)
	11月 19日(土)	第5回 保護者対象進路研究会
	12月 17日(土)	第6回 保護者対象進路研究会

## 1, 2年生対象農大の説明会

10月7日(金)に農大の説明会が行われ、第一部では1,2年生全員が参加し、第二部の学部説明会では約278名(延べ人数)の1,2年生の生徒が参加し、実際に農大の話を知る大変貴重な機会を頂き、生徒たちは意欲的に話を聞いていました。今回の説明会では、江口学長自ら来校され、農大の特徴的な教育の説明をしていただきながら、今後、農大の目指す教育、展望を話してくださいました。また、入学センターより出願や受験の方法、そして、学部説明会では6学部(生物産業学部、農学部、応用生物科学部、生命科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部)からも学部長が直々に来校され、それぞれの学部の特徴を説明するとともに、その魅力についての話をしてくださいました。江口学長から「実学主義」「理論と実践の一体化した広大なキャンパス」、さらに「最先端の設備」があり、「最先端の技術」を学べるという農大の魅力についてお話をしてくださいました。「実学主義」を掲げ、社会の多くの問題を解決しようとする農大の試みに未来への大きな期待と使命を感じました。



東京農大 江口学長



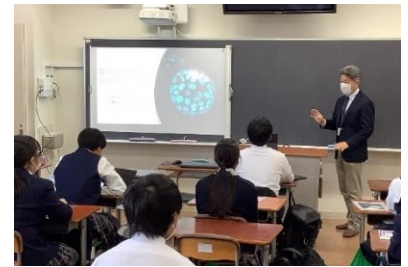
入学センター課長 仲上さん



生物産業学部 千葉 先生(副学長)



農学部長 馬場先生



生命科学部長 坂田先生



応用生物科学部長 山本先生



国際食料情報学部長 高柳先生



地域環境科学部長補佐 服部先生

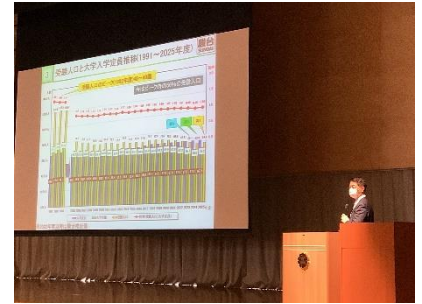
### <生徒の感想>

- ・想像していたより充実した設備が整っていて、興味を持って取り組みそうなことが沢山あった。
- ・今までは、農業だけを学ぶ大学なのかなと思っていましたが、今回参加した学部の内容を知って、農業の他、多彩な学問につながっていることを学べた。
- ・農大では総合農学を学ぶ、学生の意見を取り入れて学校を変えていこうとしていることがとても良いと思った。
- ・農業系だけでなく、生物系のこと国内の大学では最前線レベルで研究が行われていることを初めて知って驚いた。これまで農大二高の併設大学としか関心がなかったが今回、説明会を受けて印象が変わった。

## 第四回保護者対象進路研究会の実施

10月8日(土)14時30分より、本校武揚ホールにて第4回保護者対象『進路研究会』を開催いたしました。今回は併願校(私立大学)の選び方、模試結果の活用のポイントについて、駿台予備学校部長の斎藤昌一先生よりお話していただきました。大学入試のスケジュールや大学入試の教科、科目パターン、さらには学費などの一般的な話から、データをもとにした進学指導の仕方などの専門的な話、そして、難関大学に合格するために必要な勉強への取り組み方を紹介して頂きました。

その中でも特に印象的だったのは、受験生の中で苦手科目があって、とびぬけてできる科目がある生徒より、苦手科目がなく、まんべんなくできる生徒の方が、合格率が高いため、特に1,2年生のうちに苦手科目の克服をしていくことが大切であるということです。また、3年生がこれから受験校を選択していく上で悩むであろう受験校の数と難易バランスを示していただきました(下記の図)。現役生は入試直前まで伸び続けるので、目標は高く、そして、最後まであきらめない強い意志をキープすることが大事であるとのことでした。今後、3年生は受験校を決めていくこととなりますが、参考にしながら担任の先生、家族と相談して決めてください。進路に関しては知っているのと知らないのとでは大きな差になります。何かわからないことがあればいつでも進路室まで質問に来てください。

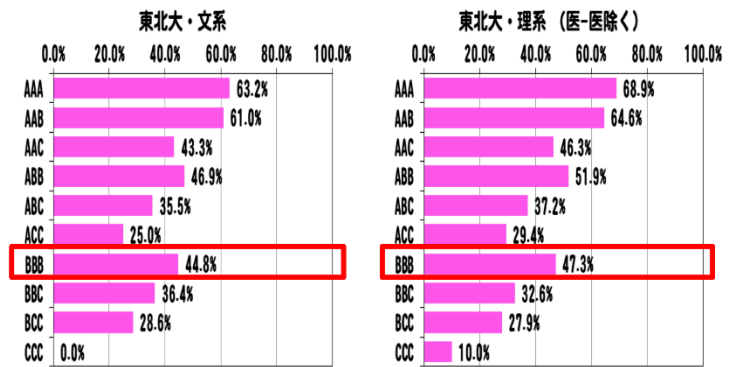


### 53 苦手科目の克服



★成績パターン別 現役合格率(全国模試)

※各科目の偏差値を、A:57.0以上、B:56.9~47.0、C:47.0未満でパターン化

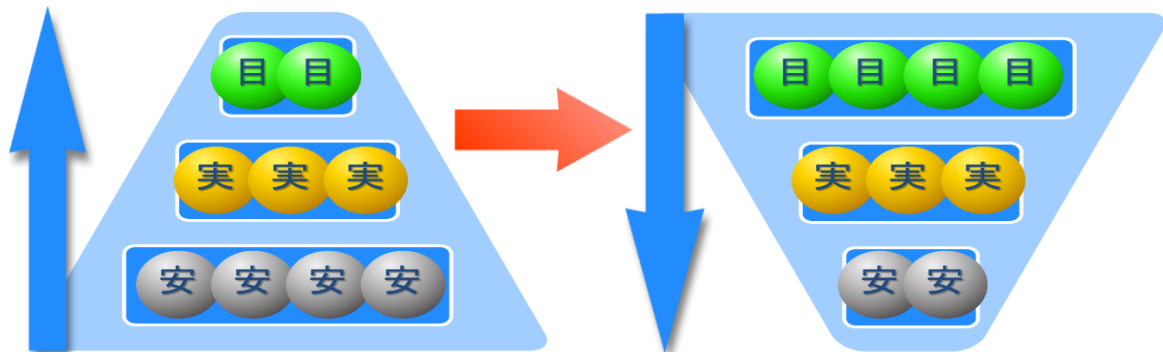


### 26 受験校数と難易バランス



第一志望校合格のため、難易度のバランスを考慮し併願校を選びましょう。

【受験校平均】 国公立大志望 → 国公立大 2校~3校 + 私立大 4校~7校  
私立大志望 → 私立大 6校~9校



近年、安全志向型(弱気)の受験生が多い。目標校が少ない受験校選定では難関大学へ合格するチャンスも少なくなる!

現役生は入試直前まで伸び続ける。目標を高く、厚めに、最後まで諦めない強い意志をキープ!